

「がん患者の予後予測に影響を与える因子についての 後方視的診療録調査」に対するご協力のお願い

研究責任者 竹内 麻理
研究機関名 慶應義塾大学医学部
(所属) 緩和ケアセンター

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

2012 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までの間に、当院の入院中に緩和ケアチームの診療を受けたがん患者の方

2 研究課題名

承認番号 20241212

研究課題名 がん患者の予後予測に影響を与える因子についての後方視的診療録調査

3 研究組織

研究機関

慶應義塾大学医学部

研究責任者

(講師) (竹内麻理)

4 本研究の目的、方法

がん医療において、患者さんの予後をより適切に予測することは、がん患者さんやご家族の意向に沿った医療を提供し、終末期をご自身らしく過ごすために大切であると考えています。けれども、医師による主観的な予後予測は必ずしも確実ではなく、また楽観的になりがちであることが以前より報告されています。また客観的な予後予測の指標も開発されていますが、必ずしも正確ではありません。そこで、今回私達は、がん患者さんの予後予測の不正確性に影響を与える原因について明らかにすることを目的に調査を行います。

診療録（カルテ）の閲覧により、下記の項目を調査します。

- ・年齢、性別
- ・がんの原発部位、がん進行度、がん治療の状況（がん治療前、がん治療中、がん治療終了後）
- ・主診療科担当医の主観的予後予測
- ・客観的指標を用いた予後予測スコア（Palliative Prognostic Index）
- ・主科初診日、緩和ケアチーム初診日、入院形態（予定入院、緊急入院）、
- ・亡くなった方の場合の生存期間、亡くなった場所
- ・身体機能（Performance Status）、血液検査所見、苦痛症状（疼痛、呼吸困難、悪心）の有無と程度（Numerical Rating Scale）、オピオイド鎮痛薬の使用量、経口摂取量、せん妄の有無、浮腫の有無、終末期の苦痛緩和のための持続鎮静の実施の有無

なお、本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報すべてを削除し、第三者にはどなたのものかわからないデータ（匿名化データ）として使用します。

5 協力をお願いする内容

診療録（カルテ）から上記の情報を調査します。これらはすべて通常の診療の範囲で取得されたものであり、研究目的で行われた項目はありません。みなさまご自身に新たにお願いすることはありません。

6 本研究の実施期間

研究実施許可日～2027 年 12 月 31 日（予定）

7 外部への試料・情報の提供

外部への資料・情報の提供は行いません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、診療録（カルテ）からの情報利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

実務責任者：竹内 麻理

慶應義塾大学医学部 緩和ケアセンター

FAX：03-5363-3509

E-mail アドレス：maritakeuchi@keio.jp

以上